

1. 活動報告（事務局 記）

—11月3日（水）二俣瀬のビオトープ・まちづくりサークル・学童保育の出展（うべの里アートフェスタ、会場：旧吉部小学校）で二俣瀬のコーナへたくさんの見学者が訪れて下さいました。ビオトープの会員の方々には、朝早くより長時間の応援も頂き盛大にビオトープのアピールが出来ました。新しいパンフレットのお手渡しと掲示板の説明でたくさんの方々の感銘を頂きました。会員13名の方々の見学と陣中見舞い等本当に有難うございました。主に原田会長、藤井・辻野会員で対応しました。

—11月7日（日）19名の会員が参加し、駐車場・ビオトープの草刈り、湿地帯の除草、須賀河内川内に生えたヨシの除去、草原ゾーンにあるクヌギの伐採、除去草の収集・焼却の作業を実施しました。作業前には、田圃への石灰窒素散布の是非について、宇部の里アートフェスタ出展の報告の事項について話し合いを行いました。

—11月21日（日）14名の会員が参加し、湿地帯の除草（ガマ主体）と除去草の収集・焼却の作業を実施しました。作業前には、関根事務局長から東屋横に設置された、堆砂実験のための塩ビパイプについての事項について説明がありました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—12月5日（日）維持活動（エコアップ、修復作業）

—12月26日（日）維持活動・年末懇親会

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声—1 【片づけ】（原田満洲夫 記）

現役でバリバリ？働いていたころのはなし

数ある社訓で「整理整頓」がその一つに挙がっていた。普通に朝礼があり、その中で社長は整理整頓は“焼却にあり”の主旨の事を何度となく云われたことを思い出した。この時はとにかく身の回りの事だけの話で地球全体の事は疎外視された話でゴミの不法棄の考えに近いと思う

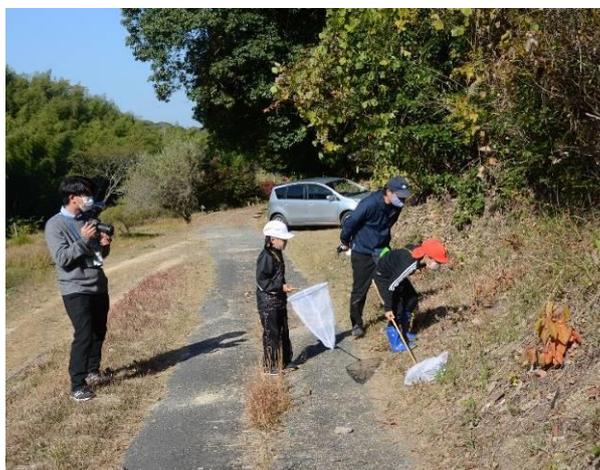
現役を退いて20年も経過した昨今のはなし

先日の活動日に紙コップや茶菓子梱包（ナイロン系含む）を焚き火の中にて消却した。整理には非常に簡単できれいになる。地球温暖化対策ネットワーク協議会の一会員にある団

体の我々の会がこれで良いのであろうか？ 焼却についての意見を述べる会員・更にそれを聞いて分別し市への焼却を依頼するため持ち帰る会員があり、さすが環境保護を主張する団体の会員であったと喜ばしく思った。

会員の声ー2 【二俣瀬小学校、野外学習会の報告】 (管 哲郎 記)

11月19日(金) 晴れ ビオトープのフィールド内で二俣瀬小学校3年生の野外学習会を行いました。3年生の3名(男子2名、女子1名)で男子1名が欠席し、学習会は生徒2名と先生1名の合計3名で行いました。なお、宇部日報社から記者1名が取材に来られました。通常では11月中旬は花も少なく昆虫類も大変少なくなる時期で、バッタ、キリギリス類がかろうじてみられる程度です。学校の都合もあるようであえて引き受けました。幸運なことに朝9:30の気温は10℃と低かったのですが、快晴のお天気で気温はぐんぐん上昇、昆虫の多く出る気温18℃以上まで上がりました。昆虫の種類は少なかったのですが、キチョウが多く飛びアカトンボも見られ、生徒たちは走り回って昆虫採集を楽しむことができました。キタキチョウ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメ、ヒメアカタテハ、マユタテアカネ、ヒラタアブの仲間、ナミハナアブ、クサギカメムシ、オオスズメバチ、コオロギバチ、クロバエ、ヤドリバエ、ハネナガイナゴ、ツチイナゴ、アミガサハゴロモなど。時間制限のある中、チョウやトンボ、バッタ類の出現でにぎわい、時間いっぱい楽しんで帰られました。記者からのインタビューにも答えていたようです。なお、生徒たちが帰った後、ニホンザルがビオトープに現れ驚きました、原田会長によるとはぐれ猿だろうとのことでした。



課外授業の様子



ニホンザル現る

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(69) ムラサキトビケラ *Eubasilissa regina* トビケラ科

6月～9月ごろに出現します、日本最大のトビケラです。ふつうのトビケラは2cmほどですがムラサキトビケラは3.5cmほどと大きいので区別が付きまます。清流の中に巣をつくりませんが、木の葉や小石を紡ぎ合わせて幼虫は暮らしています。石の裏をはぐると巣が見つかります。

皆さんには殆どなじみがなく、関心もないと思われまますが、幼虫は溪流釣りなどのエサとして利用されまます。成虫の外翅は黒色に茶色の斑紋を散らして地味ですが、内側の薄い翅は紫色に黄色の帯が入っておりきれいです。このムシも立派な昆虫ですので、紹介しました。



大きなムラサキトビケラ



ムラサキトビケラの内翅



普通のトビケラ



ヨツメトビケラ 白色型・黄色型

参考文献

- 海野和男. フィールドが伴った身近な昆虫識別図鑑, 254pp, 誠文堂新光社, 東京.
福田晴夫他. 2005. 昆虫の図鑑 採集と標本の作り方, 236pp, (株) 南方新社, 鹿児島.
三木 卓, 2006. 日本の昆虫, 255pp, (株) 小学館, 東京.

6. 会よりの連絡事項

- 1) 本年度もシイタケ栽培を行う為 原木を準備中 長岡さんより旧善和園の奉仕伐採のクヌギを頂き1m長さで15本準備しました。さらに親子自然観察隊が十数年前に植樹したクヌギを3本伐採し長いままで保存中年明けに原木として加工し合わせて二十数本のホダ木として菌打ちを行います。
- 2) 12月の最後の活動日は年末懇親会となっています。少量ではありますが餅つきも行い新しい年を迎えたいと思います。追加行事としてハスの試掘も行います。試掘で食用となるような大きさであれば日を改めて乾季の内(1月ごろ)本堀とします。

7. 編集後記 (大野 靖子 記)

周南市福川に事務局をおく福川子どもクラブの活動は、コロナ禍のため、昨年度よりほぼ実施しておりませんでした(昨年度はオンラインによる山口大学探険のみの実施)、11月と12月、久しぶりに行うこととしました。一昨年度の参加者に案内をお送りすると、「心待ちにしてみました!」、「お友達も誘って良いですか。」など、とてもうれしいお言葉をたくさんいただきました。いざ実施すると決めてしまうと、スタッフも心なしかうきうきしている様子がうかがえます。最近は会議も研修も、子どもたちの体験活動でさえ、オンラインです。それでも子どもたちにとって、実際に現地に出かけ、対面でいろいろな人たちと一緒に活動することは、とても大切な経験になると、みなさん思っておられるのではないのでしょうか。とりあえず、今年と来月、コロナ対策の項目をおさらいし、安全な活動を行いたいと思います。